

A-I-03 アンケート調査をもとにした呼吸療法勉強会への取り組み ～呼吸療法チーム発足を目指して～

静岡厚生病院 看護部 外科病棟¹⁾ 同 臨床工学科²⁾ 同 リハビリテーション科³⁾
松村 加奈恵¹⁾ 河村 亮²⁾ 杉山 基³⁾

【背景】

当院は病床数265、内科、外科、整形外科などを有するいわゆる中規模病院である。呼吸分野では、呼吸器科及び、麻酔科の常勤医師はいない。これらの状況から各スタッフの呼吸分野への関心は低い。質の高いチームでの呼吸ケアを行うため、呼吸療法認定士を中心に呼吸療法勉強会を開催する事にした。開始時間は17時30分～、終了時間は日によって違うが18時～19時、開催日は毎月第4木曜日、講師は呼吸療法認定士2名、病棟看護師、メーカーなどが交替で行った。しかし、希望者のみの勉強会にしていることもあり、参加人数は少なく平均で10人以下であった。

【目的】

毎月1回おこなっている呼吸療法勉強会を充実させ、参加人数の向上を図り、呼吸療法チーム発足の第1歩となるよう、看護職員にアンケートを行い、参加者向上に向け、改善点を見いだし検討した。

【アンケート概要】

対象は、参加者が多い当院正職員の看護師全員151人とした。内容は、勉強会に参加したことがあるか、開始時間は何時がよいか、勉強会が必要だと思うか、内容はどうか、など計13項目。回収枚数は143枚、回収率は94.7%であった。

【結果】

「勉強会を行っているのを知っていますか？」の質問に対して、「はい」・71%、「いいえ」・29%であった。「開始時間は何時がよいかですか？」の質問に対して、「17時15分～」と「17:30分～」で50%ずつに別れた。「今後も呼吸療法勉強会が必要だと思いますか？」の質問に対し、「いいえ」と答えた人はいなかった。「呼吸療法認定士を知っていますか？」の質問では、まったく知らなかった人は25%であった。「勉強会に参加したことがありますか？」の質問に対し、経験年数別で見ると、「はい」と答えた人は1年目～5年目が最も多く44%で、統いて6年目～10年目が25%となった。最も少なかった

のは、11年目～15年目で、5%であった。「なぜ参加しませんでしたか？」の質問に対し、経験年数別に見ると、「忙しい」と答える人は経験年数が上がるにつれて増えていた。「知らないかった」と答えた人は経験年数が浅くなるに連れて増えていた。

今回のアンケート結果から、「勉強会を知らない」と答えた人に対しての働きかけが最も必要だと考えた。

【改善点】

改善点1・案内用紙の変更。^①用紙サイズの変更やイラストを入れるなど、目立つデザインに変更した。^②参加者が目的を持って参加できるよう、内容の詳細を記載した。^③内容を把握しやすいよう、担当者（講師）の名前を記載した。^④参加者の都合にあわせやすいよう、終了時間を明記した。^⑤勉強会の目的を記載した。

改善点2・勉強会の内容を充実させる。^①参加者の要望を多く取り入れるため、定期的にアンケート調査を行い需要の多いテーマを取り上げる。^②参加者が聞きたい内容を把握しやすいよう、3ヶ月ごとに今後のテーマを検討し決定する。

改善点3・参加しやすい時間にする。^①開始時間は何時がよいかの質問に17時15分～と17時30分～と答えた人がほぼ同数であったため従来通り17時30分～とした。^②終了時間は18時15分とし、講義時間は、45分とした。決定理由は、参加者の最も多い1年目～10年目で「講義時間はどれくらいがよいか」の質問に対し『30分』・『45分』・『1時間』と答えた人に差が無かつたためである。

【結語】

呼吸療法チーム発足には適当人数の呼吸療法認定士が必要と考えている。それには、勉強会に参加するスタッフを増やすことが重要である。今回アンケートを行ったことにより、参加しやすい勉強会の形が確認できたことは大きな成果であったと考えている。今後も今回の研究成果を生かして、呼吸療法勉強会を継続していく、呼吸分野に興味を持つ医療スタッフを増やし、呼吸療法認定士を養成出来るように内容を充実させていきたい。